



## OTC薬を上手に使おう…上手のヒント⑥ 病気の悪化を防ぐ2

M-No.4-4では、医師の治療を受けている方が、頭痛やかぜなどでOTC薬を使用したいと思ったときに、選んだ薬が治療中の高血圧を悪化させる可能性があるケースについて書きました。今回は、糖尿病を悪化させる可能性があるOTC薬についてみていきます。

### 糖尿病で治療(服薬)をうけている方

#### ●交感神経刺激薬

- ① 塩酸プソドエフェドリン: 鼻づまりを楽にする成分として、多くの鼻炎薬に配合されている。交感神経刺激作用により、血糖値を上昇させたり、インスリンの分泌を変化させたりして血糖値のコントロールを悪くするおそれがある。
- ② 塩酸メチルエフェドリン、塩酸メキシフェナミン: 多くの総合かぜ薬や咳止めに配合されている成分で、交感神経刺激作用により、血糖値を上昇させたり、インスリンの分泌を変化させたりして血糖値のコントロールを悪くするおそれがある。
- ③ 塩酸ナファリリン、硫酸テトラヒドロリン、塩酸テトリリン、塩酸フェニレフリン:  
ほとんどの点鼻薬に配合されている成分で、交感神経刺激作用により、点鼻薬であっても血糖値を上昇させたり、インスリンの分泌を変化させたりして、血糖値のコントロールを悪くするおそれがある。

#### ●マオウ(麻黄)

葛根湯や小青竜湯など多くの漢方製剤に配合されている麻黄は、交感神経刺激薬エフェドリンを主成分とするため、血糖値のコントロールを困難にし、症状を悪化させるおそれがある。総合かぜ薬、咳止め、鼻炎薬、点鼻薬などを購入する際には、病気や服用薬について、薬剤師に相談する。

#### ●副腎皮質ステロイド(副腎皮質ホルモン)

糖尿病の方は抵抗力の低下により感染症を起こしやすい。副腎皮質ホルモン剤は、使用部位の抵抗を抑制して炎症を抑える薬なので、一層感染症を引き起こしやすくなるおそれがある。虫刺されや湿疹・炎症用の外用薬(軟膏・クリーム・液剤)、痔疾患用の坐薬などに配合されている。長期間の使用には注意が必要であり、症状が改善しないときには早めに薬剤師に相談する。

#### ●解熱鎮痛剤(アスピリン)

一般的な解熱鎮痛薬であるアスピリン(バファリンAなど)は、インスリンの作用を強める働きがあり、また本剤自体も血糖値を下げる作用をもっているため、血糖値が下がりすぎたり、コントロールが十分にできなくなるおそれがある。解熱薬や痛み止めを購入する場合は、薬剤師に相談する。

